

背中に突き抜けるような痛みが

「しばらくぶりです」といいながら、お店に入ってきた50歳代の男性。「昨日、退院してきたんだ」と話が始まりました。

ある日の夕方、家に居てしゃがんでいて立とうとしたとき、鎖骨の下のあたりに激痛が起こり、それが背中に突き抜けるような痛みが襲ったそう。

これはただごとではないと、すぐに救急車を呼ぼうとしましたが、手も足も動きづらくなり、ようやくスマートフォンを手にしたものの、指が動かず119番の操作ができない。そこへちょうど奥様から電話があったので、「119番してくれ」と頼んだといいます。

しばらくすると救急車が到着してすぐ携帯電話に電話が入り「玄関のカギを開けて下さい、できないときはドアを壊します」とのこと。動かない手足を引きずりながら、玄関のカギを開けて倒れ込んだところに、奥様も帰ってきてすぐ病院へ。

調子がよくなり7日間で退院

意識がハッキリしてきたら、病院の集中治療室のベッドに。若い医師たちが取り囲んでいて、教授らしき先生が「こういう場合はこういう薬を投与して、切開手術はできないので君ならどうするか指導しているらしい声が聞こえたそうです。病名は右腕頭動脈解離。

急性症状が落ち着いてきた翌日のこと、MRI撮影しているときに、手の指が動く感じがしたので動かしてみました。検査が終わり先生に「何だか動かせ

店頭から「にんちちは」

第152回

奥様から電話があり、ようやく救急車を呼んで病院へ搬送されて――。

右腕頭動脈解離になった男性が… 一命を取り留めたとっさの行動



る感じなんです」といって、「話せるようになったのか、やってみなさい」といわれて試したところ、手も足も動かせる状態に。先生方もビックリ。「一過性の脳梗塞も消えてしまったからだろう」とのこと。解離自体は治っていないので、いつ再発するか分からないから、1週間様子を見てその後、一般病棟へ移る予定だったそう。

看護師さんが、「ICUでこんなにしゃべる人はめったにいないし、ここで食事をとれる人もいないですよ」と感心していたとか。結局、調子がいいので7日で退院してきたのです。

タバコは今後絶対吸ってはダメといわれ、禁煙グッズを吸っているそう。「いや、そういう行為自体やめてしまったほうが、完全にやめられるよ」とお話しを。

そして、「船酔いの薬が欲しい」というので、「そんな体調で船釣りなんてとんでもない、しばらく静養していないとダメだ」と説得し、納得してくれました。

「こんな所では死んでいられない。1分1秒でも早くしないと、こういう病気は命取りになる」と思ったからこそその行動で、一命を取り留めた方の話でした。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ

宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「就寝時も熱中症に気をつけましょう」

